

# ボクシング界「元気づける」

# 袴田死刑囚再審へ 名誉ライセンス

無実を訴えている元プロボクサー袴田厳死刑囚(七〇)に、「日本ボクシングコミッション」(JBC)から「名誉ライセンス」が贈られる。日本のプロボクシングの唯一の統括団体が、冤罪事件の支援に乗り出すのは前例がない。ボクシング界を挙げ、再審開始を働きかける。

「無罪を勝ち取るために戦うのは、ボクサーが困難や苦勞と戦うのと同じ。本当に無罪なら、ボクシング

袴田事件 1966年、静岡県清水市(現静岡市)のみそ製造会社専務宅で一家4人の刺殺体が見つかり、従業員袴田厳死刑囚が逮捕された。公判で無罪

を求めたが、80年に死刑が確定。再審請求は静岡地裁、東京高裁で棄却され、現在最高裁に特別抗告中。弁護団は「公判中に見つかった衣類などの証拠はねつ

に長く、長かかわっていただけの人だ。名誉ライセンスか、それに類するものを検討している」

東京・後楽園ホールで二十七日行われた記者会見で、JBCの安河内剛事務局長がきっぱりと語った。名誉ライセンスの対象は、元王者らが一般的。冤罪事件では異例だが、米国では約二十年の服役の後に無罪になった「ハリケー

元世界王者らと会見に臨み、「JBCもできる限り協力したい」と話す安河内事務局長(右から2人目)＝27日、東京都文京区で



無実を訴えている元プロボクサー袴田厳死刑囚(七〇)に、「日本ボクシングコミッション」(JBC)から「名誉ライセンス」が贈られる。日本のプロボクシングの唯一の統括団体が、冤罪事件の支援に乗り出すのは前例がない。ボクシング界を挙げ、再審開始を働きかける。

定される見通しだ。袴田死刑囚は元日本フェザー級六位。静岡県雄踏町(現浜松市)で生まれ、中学卒業後にボクシングを始め、アマチュアでは国体にも出場した。プロ転向後の戦績は二十九戦十六勝(二KO)十敗三分。KO負けは一度もなく、一年に十九試合したことも。元トレーナーは「タフで打たれ強い選手。練習も頑張るタイプ」と振り返る。

## JBCが来月正式決定「情熱を注いだ証し」

「プ」と振り返る。弁護団は特別抗告理由補充逮捕されたのは体調を崩して引退し、カムバックに向けてトレーニングしているときだった。東京拘置所でも、つるしたぞうきんをパンチングボールに見立てたたき、ボクシングへの思いを語っていたという。ボクシング界では昨年、JBC会長でつくる「東日本ボクシング協会」を中心に支援活動が再燃。事件の背景にボクサーへの偏見があるなどとして、試合会場で元王者らがアピールしてきた。

長期拘禁で精神的に不安定になっていた袴田死刑囚だが、昨年十一月、三年八カ月ぶりに姉秀子さん(七四)らの面会に応じる。今年六月には、同協会支援委員会の新田涉世委員長が、ボクシング関係者として二十七年ぶりに面会。袴田死刑囚は「あんたは打たれ強い顔をしている。おれも打たれ強かった。あんたはパンチもあつたはずだ」などと語ったという。

現在は日本プロボクシング協会(JPBA、原田政彦会長)もバックアップ。

弁護団は特別抗告理由補充書や最終意見書を最高裁に出し、来年三月までに結論を出すよう求める方針。

名誉ライセンスは来年一月二十四日、後楽園ホールで開く「袴田厳支援チャリティボクシング」で袴田死刑囚の関係者に贈られる。既に現・元世界王者十人が参加を承諾しておおきく、ボクシング教室や袴田支援活動に関するトークショーを開く予定。元王者星野敬太郎さんと現王者イグルさんなど、数組のスーパーリングを披露する。

二十七日の会見には元世界王者六人が集結。JPBA支援委員会の大橋秀行委員長が「内藤大助選手や亀田興毅選手にも参加を要請したい。川嶋勝重選手が一月の試合で世界王者になったら、私が(スパーリングで)挑戦します」と宣言した。安河内事務局長は「ライセンスは若いころボクシングに情熱を注いだことが切実になっていく年代でもあり、ライセンスの発行で元気づけるれば」と話している。

11月の追跡